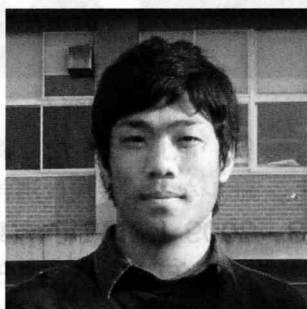


特集 六本松

さようなら、田島寮

法学部3年 久富 隆一

ちょうどこの文章を書く3日前に、田島寮のA棟一階のメンバーが集って、そのうちの一人の誕生会を開きました。まだ寮を出て半年も経っておらず、また、6月ごろにも一度飲み会を開いてい



たので大して久しくもなかったのですが（今現在はお盆の真っ只中です）、やはり寮生活をしていたときは毎日当たり前に顔をあわせていただけあって、どうしても「久しぶり！」という言葉が口をつきます。

みんなで飲みながら、わいわい騒ぎながらする話は、だれに彼女ができたの、最近麻雀の調子が良いの悪いの…と、くだらないものが大半ですが、学部やサークルの友人とはまた違った、古くからの友人と話すようになりラックスした気持ちになることができました。

このような寮生同士の親しい関係は、単に一つ屋根の下に暮らしていただけではなく、伝統的に行われてきた様々な寮の行事を時には楽しく、時には助け合いながら乗り越えてきたからこそ培われたものでもあります。4月の新入生歓迎行事「春コン」に始まり、「コンパ&ストーム」という名の出し物大会、パンツ一枚で町を練り歩く「パンツ行進」、様々なお題をこなしながら市内をまわる「福岡めぐり」、猛練習した「ダンスパーティー」、内容は説明するまでもない「大合コン」、そして「寮祭」。

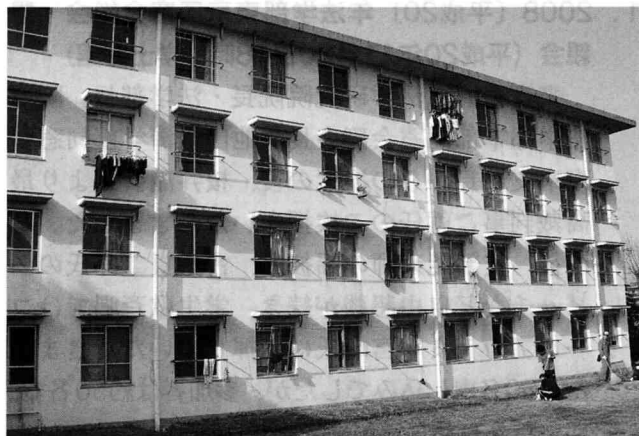
挙げ始めればきりがありませんが、今ではそのどれもがとても思い出深いものです。なかでも、5月から約2カ月にわたり、樽御輿を担ぐ際の「禪の色」を巡って（！）（ちなみに1位が赤色の禪、2位が青色、3位が黄色でした）、そして各棟・フロアの誇りをかけてスポーツや文化系種目、「女装」ミスコンなどで競い合った田島寮寮祭は、寮生同士のつながりを本当に強くしてくれるものでした。7月の本祭の日に樽御輿を担いで田島寮に帰還したときには、入寮して間も

ないころのよそよそしい態度とはうって変わって、みんな昔からの友達のように親しい関係になっていたことを覚えています。

このように、男子寮ならではの時には面白おかしく、時には厳しい伝統行事を通して、そしてもちろん普段の寮生活を通して、これまで多くの九州大学生に素晴らしく実り多き2年間を与えてくれた田島寮が閉寮となってしまう、これから九州大学に入学してくる後輩達に貴重な経験を得る機会がないことは本当に残念です。また、僕自身、もう田島寮に行くことができないことには寂しさを禁じえません。

さらには先に挙げたような伝統行事がなくなってしまうこと、「音頭とり」（この伝統ある、激しく力強い「スポーツ」、いや「格闘技」？をご存知でしょうか！）ができないこと、長年歌い継がれてきた「寮歌」「逍遙歌」が歌われる場所をなくしてしまったことについては、多くの田島寮OBの方々も悲しんでおられることと思います。

九州大学田島寮はその長い歴史に幕を閉じてしまいましたが、僕自身、田島寮最後の寮生となれた幸運に感謝し、これからも寮の友人と長い関係を続けていきたいと願っていますし、社会で活躍しておられる諸先輩方も田島寮の思い出を忘れることなく、寮生時代の旧友と交流を続けている方も多いのではと思います。



閉寮間近の田島寮（2009年3月）

同窓会などで先輩方に昔の田島寮のことをお聞きする機会があれば幸いです。

では、田島寮の思い出を忘れずにこれからも語り継いでいくであろう、熱い気持ちをもつ多くの「田島寮生」を代表して、ありきたりですがこの言葉で駄文を締めさせていただきます。と思います。

われらが田島寮は永遠に不滅です！

さようなら、田島寮。